保育所における　自己点検・自己評価

令和７年度　　社会福祉法人　南山福祉会　みなみ保育園

Ａ：大変良い
Ｂ：良い
Ｃ：一部検討を要する
Ｄ：改善を要する

項　目

◎　保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内　　容	評価	意見・改善策
保育目標について	(1)保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	B	**意見** 子どもの主体性を尊重する「子ども中心」の保育目標が設定されており、職員間での一定の理解は進んでいる。一方で、目標が形式化せず、日々の具体的な子どもの姿（乳幼児の実態）に落とし込まれているかについては、さらなる深掘りの余地がある。 **改善策** 全体的な計画や重点目標の文言に、子どもの「自己決定」や「内発的動機」を促す視点をより明確に反映させる。年度初めだけでなく、期ごとの振り返り会議などを通じて、全職員が目標を我が事として捉え直す機会を定期的に設ける。
	(2)目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。	B	
	(3)目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	B	
	(4)目標は、前年度の反省を生かしているか。	B	
	(5)目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	B	
保育について	(1)指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	B	**意見** 保育指針に基づき、環境構成を意識した援助が概ね適切に行われている。今後は「指導計画に沿うこと」自体が目的化しないよう、子どもの興味・関心やその場のプロセス（過程）をより柔軟に面白がる「余白」を持った保育の実践が求められる。 **改善策** 週案や日案の作成において、活動を詰め込みすぎず、子どもが自発的に遊びを展開できる時間的・空間的な「余白」を意識して計画する。保育評価（振り返り）の際には、結果だけでなく「子どもがどう環境に関わっていたか」というプロセスに焦点を当てて記録し、次の環境構成に活かす。
	(2)保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。	B	
	(3)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	B	
	(4)素材・用具を適切に活用しているか。	B	
	(5)評価結果を元に、保育の改善に努めているか。	B	
日時程	(1)１日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよいか。	B	
行事について	(1)行事の種類や実施回数は適切か。	B	**意見** 行事において子どもたちが自ら演目を決めて実施する取り組みは、子どもの主体性や自己決定、内発的動機付けを最優先にする当園の保育理念を象徴する極めて価値の高い実践である。そのため、「大人が見せたい姿」や「保
	(2)行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	B	

	(3)乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。	B	護者の好む演目」を大人の主導で反映させる必要はない。 しかし、現状では「なぜその行事スタイルなのか」「子どもたちがどうやって演目を決めたのか」というプロセスが保護者に十分に伝わりきっておらず、結果として「保護者の願いが反映されない」という一方通行な印象を与えている可能性がある。保護者の「願い」の本質は、演目の指定そのものではなく、「我が子の成長や生き生きとした姿を見たい」という点にあるため、園の理念への理解・共感を広げるアプローチが必要である。
	(4)計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	C	
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか。	C	

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項　目		内　　容	評価	意見・改善策
経営・組織	分掌・体制	(1)能率的、合理的な運営組織になっているか。	C	**意見** クラス目標やねらいの設定は概ね適切であるが、日々の評価や諸記録（指導録・児童票など）の集積・活用が追いついておらず、書類作成自体が負担（C 評価）になっている。 **改善策** 保育記録や児童票の入力・集積プロセスにデジタルシステムや生成 AI のサポート（音声入力の活用や要約の自動化など）を検証・導入する。記録業務を効率化することで、クラス内やチーム保育における「子どもを看取る（観察する）視点」の共有をよりスムーズに行える環境をつくる。
		(2)職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。	B	
		(3)職員の配置は適材・適所か。	B	
		(4)係りや仕事の分担・割り当ては適切か。	C	
	運営	(1)各種会議を適切かつ効率的に進めているか。	B	
		(2)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。	B	
		(3)打ち合わせ回数、時間、内容は適切か。	B	
	年齢別・クラス経営	(1)年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	B	
		(2)年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。	B	
		(3)年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。	B	
		(4)同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	B	
		(5)意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。	B	
		(6)評価、資料（諸記録）を集積しているか。	C	
	保健・安全指導	(1)年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	B	**改善策** 単なるマニュアルの遵守にとどまらず、子ども自身が「自分の身を自分で守る（危険を予測する）」危険回避能力を育めるよう、日常の遊びや環境の中に安全教育の視点を自然に織り込んでいく。
		(2)避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	B	
		(3)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	B	
		(4)乳幼児の安全確保のため、家庭、地域社会・関係機関等の連携を図っているか。	B	

研究・研修	園内研究・研修	(1)研究主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。	C	**意見** 園内研修は実施されているが、研究主題が日々の保育実践と直結しきれていない部分があり、乳幼児理解の深まり（C 評価）において成果が見えにくい。 **改善策** 「子どもの視点から保育を考える」を共通のテーマとし、職員が日々の保育で感じた「なぜ？」「おもしろい」を気軽に持ち寄る事例検討会を中心に据える。正解を求める研修ではなく、職員個々の多様な気づきを認め合える研修風土を作り、日常の保育へ即座に還元できる好循環を生み出す。
		(2)園内研修の計画・運営は適切か。	B	
		(3)研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。	B	
		(4)研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。	C	
	園外研究・研修	(1)各種研究会、研修会、講習会への参加体制の充実を図っているか。	B	
		(2)各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。	B	

項　目		内　　容	評価	意見・改善策
情報について		(1)乳幼児や保護者に関する個人情報を適切に取り扱っているか。	A	
		(2)公文書収受、発送、処理を適切に行っているか。	A	
		(3)各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。	A	
施設・設備		(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	B	
		(2)遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。	B	
		(3)不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。	B	
		(4)掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	A	
出納・経理		(1)各種会計を適正かつ適切に処理しているか。	A	
開かれた保育園づくり	施設間交流・連携	(1)他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものとなっているか。	C	**意見** 幼稚園や小学校、他施設との日常的な情報交換や触れ合いはあるものの、年間を通じた計画が保育目標や現在の課題と明確に連動していない。 **改善策** 「就学前教育の円滑な接続」や「異年齢児間の効果的な活動」など、明確な課題（ねらい）を持った年間交流計画へと再編する。小学校の授業参観だけでなく、指導者同士が互いの「子どもへの関わり方」を学び合えるような、本質的な合同研修の機会を年 1～2 回設定する。
		(2)他施設等の幼児児童生徒と触れ合う中で、(乳)幼児が楽しく過ごし充実感を味わうような配慮や援助・支援を行っているか。	B	
		(3)指導者同士が、打ち合わせや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対しての理解を深め、援助について共通理解を図っているか。	B	
		(4)参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の教育を理解しているか。	B	
		(5)日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。	B	
	会　社	(1)参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。	B	**意見** 参観日の設定や地域行事への参加

		(2)保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	D	はできているが、保護者を含む「地域の人材活用」（D 評価）に関しては、時期や内容の検討が極めて不十分であり、ポテンシャルを活かしきれていない。 **改善策** 地域の伝統文化（エイサーや旗頭など）の継承者、あるいは保護者が持つ専門性や趣味（工作、音楽、読み聞かせなど）をリスト化し、年間の保育計画の中に「ゲストティーチャー」として自然に組み込める体制を整える。園側からの「お願い」ベースではなく、地域や家庭と共に子どもを育てるコミュニティのハブとなることを目指す。
		(3)(乳)幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。	B	
		(4)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。	B	

項　目		内　　容	評価	意見・改善策
開かれた保育園づくり	子育て支援の推進	(1)園庭や中庭、保育室等を開放しているか。	D	**意見** 職員による個別の子育て相談は充実しているものの、園庭・保育室の開放（D 評価）、地域親子の遊びの場の提供（D 評価）、保護者向け学習機会の設定（D 評価）という、地域に向けた「開かれた支援」が大きく不足している。 **改善策** 園庭・環境の開放： 曜日や時間を限定して園庭や未就園児用スペースを開放し、地域の子育て世帯が安心して集える場を定期化する。 園独自の取り組みとして、例えば「生成 AI を活用した子育て情報の探し方」や「子どもの自主性を育む環境づくり」といった、現代のニーズにマッチした気軽なミニ講座や座談会を企画・実施する。
		(2)地域に住む子ども同士、あるいは親子が一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか。	D	
		(3)「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。	D	
		(4)職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	B	
		(5)医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	A	
	情報発信	(1)保育園だより・クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	A	**意見** 園だよりやホームページを通じた情報発信は大変充実しているが、第三者評価の導入が進んでおらず、運営の客観的評価の面で課題が残る。 **改善策** 現在の充実した情報発信（ドキュメンテーション等のデジタル発信）の仕組みを活かしつつ、次年度内の「第三者評価」の受審に向けて具体的なスケジュールを策定する。客観的な評価を受けることで、園の強み（子ども中心の保育、心理的安全性のある組織）を再確認し、さらなる信頼向上へ繋げる。
	外部評価	(1)第三者評価を導入し、施設運営に反映してるか。	D	
		(2)地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。	B	

令和７年度 自己点検・自己評価 総評

社会福祉法人南山福祉会 みなみ保育園における令和 7 年度の自己点検・自己評価を終え、当園の現在の立ち位置と、次年度へ向けた持続的な発展へのロードマップが明確となった。

１．本年度の成果と当園の強み（Ａ・Ｂ評価の総括）

本年度の評価において最も特筆すべきは、**「子ども中心」の保育理念**が、日々の指導計画や環境構成、そして行事の実践において高い水準で具現化されている点である。 特に、行事において子どもたち自身が主体となって演目を決定し、内発的動機に基づいて展開していく取り組みは、子どもの自己決定権と主体性を尊重する当園の保育の真髄を象徴する極めて価値の高い実践として機能している。

２．今後の課題と改善への方向性（Ｃ・Ｄ評価の分析）

一方で、園の持つ高い保育の質や理念が、まだ組織全体の業務効率や、地域・保護者への発信において十分に還元しきれていない部分（Ｃ・Ｄ評価）が課題として浮かび上がった。

- **保育の「余白」の創出と業務効率化（経営・組織・研修）** 諸記録の集積・活用や一部の職務分担において、書類作成をはじめとする事務負担が現場の課題となっている。これに対しては、デジタルシステムや生成 AI 等の先進技術を積極的に検証・導入し、ルーティンワークの「業務効率化」を徹底する。これにより、職員の心と時間に「余白」を生み出し、その余白を「子どもの視点から保育を考える」事例検討や、職員が互いの多様な気づき（マルチカラー）を認め合える心理的安全性に満ちた園内研修の充実へと投資していく。
- **「開かれた保育園づくり」の多角化（地域・家庭との連携、子育て支援）** 園内での素晴らしい子ども主体の実践を、今後は「地域社会」へと拓いていく必要がある。園庭・保育室の計画的な開放や、現代のニーズにマッチした子育て学習機会の提供を具体化し、地域の子育て世帯が孤立しないコミュニティのハブとしての機能を強化する。また、地域の伝統文化（エイサーや旗頭など）の担い手や保護者の専門性を「地域人材」として保育計画に有機的に織り込み、地域と共に子どもを育む体制を再構築する。
- **理念の社会的発信と客観性の担保（外部評価）** 子ども主体の保育ゆえに、行事等で大人の願いが直接反映されない側面については、その背景にある「子どもの自発的な成長を育む意図」をドキュメンテーション等で保護者へさらに丁寧に発信し、共感の輪を広げていく。あわせて、未着手である「第三者評価」の受審に向けた具体的スケジュールを策定し、客観的な外部の視点を取り入れることで、当園の強みをより確固たる信頼へと昇華させる。
-

３．結び

みなみ保育園は、子どもたちの「やりたい」に徹底して寄り添う園としての誇りと軸を強固に持ち続けている。次年度は、ICT・生成 AI の活用による組織の省力化と、地域・家庭へ向けた対話の活性化を両輪として進め、職員がゆとりを持って子どもたちと「共に生活をつくる」ことができる、より豊かで開かれた保育空間の創造に邁進していく。